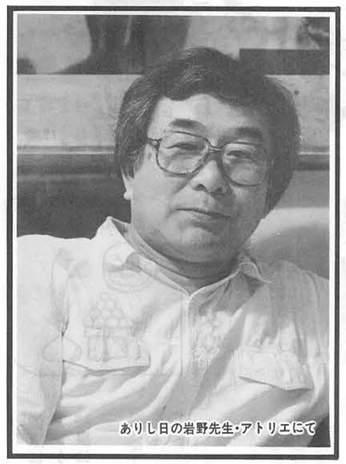
広報つなぎ 9月 No.260
昭和62年
発行／津奈木町 編集／企画課 印刷／水俣旭印刷所

人口と世帯（8月1日現在）人口6,103（−11）・男2,911（−4）・女3,192（−7）・世帯1,715（0）　（　）内は前月との比較

彫刻に情熱を注がれた日々
岩野先生を悼む


ありし日の岩野先生・アトリエにて

八月二十六日早朝、岩野勇三先生の訃報に驚愕した。二十五日午前十一時半に御他界、急遽上京した西川収入役と共に、世田谷区上馬の先生宅を弔問、葬儀前日の慌しい中に、奥様と奥様の御尊父にお目にかかり、ともども御他界迄の御様子を承り落涙を禁じ得なかった。あけぼの橋のブロンズ『爽風』に引続き、津奈木大橋に設置するブロンズの製作を御願いして、二月十八日収入役と共に、先生のアトリエにおいて正式契約を結んだ。此の時既に先生は自分の脳癌を知っておられ、奥様と御長男以外、家族や親しい友人にも告げることなく製作に没頭され、七月には津奈木のブロンズ『薫風』を完成、更に仙台市依頼の『牧歌』に取り組まれた。五月十九日収入役が橋とブロンズの結合部分について打合わせの為農林水産課長と上京したが、全く変った御様子はなかったと云う。その折「先生、今度の作品はすごい迫力ですね夕日を背にした『薫風』は素晴らしいですね」と言ったら、西川さんも感性が豊かになりましたね、実は、あの場所は橋といい、景色といい、絶っていい。景色といい、絶っていい。景色といい、絶っていい。